

抗MRSA薬における薬物血中濃度モニタリング（TDM）実施率

算式

TDM実施症例数 ÷ 抗MRSA薬投与全症例数 × 100

対象

3日間以上連続してバンコマイシンおよびテイコプラニン（注射薬）を投与した全入院患者（全診療科・全病棟）

考察

抗MRSA薬のうちバンコマイシンおよびテイコプラニンは血中濃度と有効性、副作用に相関があり、血中の各薬物濃度を測定しながら投与量を最適化することが治療上求められる。おおむね95%以上で推移しており適正な実施状況と考える。

計画

今後もモニタリングを継続し、実施率の低下がないか監視を行う。

